今こそ絆！復興事業 vol.3

平成29年度
熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会

～明日へつなごう、みんなの「わ」～

報　告　書

日　時	平成29年9月2日（土）午後1時～午後5時
場　所	ウイングまつばせ「コミュニティアリーナ」「視聴覚室」
主　催	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 （SCS火の国クラブネット）
後　援	熊本県教育委員会 公益財団法人熊本県体育協会

今こそ絆！復興事業 vol.3
平成２９年度熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会開催要項～明日へつなごう、みんなの「わ」～

1　目　的：研修会を通じて、総合型地域スポーツクラブの運営に関する知識やノウハウを身につけ、各クラブの運営に役立てる。また、各クラブの情報を交換、共有する。

2　主　催：熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

3　後　援：熊本県教育委員会、公益財団法人熊本県体育協会

4　期　日：平成２９年９月２日（土）午後１時から午後５時

5　会　場：ウイングまつばせ「サブアリーナ」「視聴覚室」
〒869-0592　宇城市松橋町大野 85

6　対象者：県内総合型地域スポーツクラブ関係者、市町村行政関係者、希望者

7　申込方法：別紙申込書に必要事項を記入のうえ、８月４日（金）までに担当クラブ事務局あてメールにてお申込ください。

8　申込先：UKI おがわクラブ（担当：宮﨑雄二）
〒869-0622 宇城市小川町西北小川 367-1（宮﨑様宅）
℡:090-2718-9483　Mail: ogawasp@coral.ocn.ne.jp

9　定　員：200 名（先着順）

10　参加費：

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブ	無料
総合型地域スポーツクラブ設立準備団体関係者	無料
学生	無料
その他、一般参加者	500 円（1 人）

11　日程及び内容：

時　　間	内　　容
１２：３０～１３：００	受　付（分科会①・②に分かれる）
１３：００～１３：１５	各会場で開会式
１３：１５～１４：４５	(1)分科会 ①パネルディスカッション「小学校運動部活動の社会体育移行」 ②ワークショップ「今後のクラブ運営」
１４：４５～１５：００	休憩・移動
１５：００～１５：１５	分科会の振り返り
１５：１５～１６：３０	(2)講演　「熊本地震からの地域復興とクラブの役割」 講師　　NPO法人クラブおおづ　ゼネラルマネジャー　斎藤陽子　氏
１６：３０～１７：００	閉会式
１７：３０～	情報交換会（会費：4,000円程度予定）

12　備　考：駐車場には限りがありますので、できる限り乗り合わせでのご参加をお願いします。

― 日 程 ―

1 開会式（13:00～13:15）

＜分科会1＞コミュニティアリーナ　＜分科会2＞視聴覚室　※分科会の会場毎での開会となります。

2 分科会（13:15～14:45）

＜分科会1＞ 小学校運動部活動の社会体育移行

(1)ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　DREAM 火流 理事長兼クラブマネジャー 北園武広 氏

(2)ﾊﾟﾈﾘｽﾄ　NPO 法人長洲にこにこクラブ クラブマネジャー 橋垣真美 氏
NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ クラブマネジャー 桝田康代 氏
NPO 法人うとスポーツクラブ 理事長 安田孝二 氏

＜分科会2＞ 今後のクラブ経営

(1)ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ　ひかわスポーツクラブ クラブマネジャー 齋藤久允 氏

3 分科会の振り返り（15:00～15:15）

4 講　演(15:15～16:30)

(1)演　　題 「熊本地震からの地域復興とクラブの役割」

(2)講　　師 NPO 法人クラブおおづ ゼネラルマネジャー 斎藤陽子 氏

5 閉会式（16:30～17:00）

(1)閉　　会

6 情報交換会(17:30～)

分科会１「小学校運動部活動の社会体育移行」まとめ

コーディネーター（県体協・永田部長）	北園さんが来られるまでの代役として、コーディネーター役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 はじめに、熊本県からの情報によりますと、現在、熊本市を除く４４市町村の小学校運動部活動は７６７部活の中で、９７部、約１２．６％が移行を完了しています。しかしまだ、６７０部が残っている状況です。熊本市も、NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブのエリア内小学校のように、各小学校単位で移行を進められているようです。実際、県体育協会に小学校の校長先生から、話をして欲しいとの依頼もあります。来週も出かける予定にしています。熊本市もおそらく３００～４００の部が活動していると思われます。小学校運動部活の社会体育移行の進め方は、市町村ごとに検討委員会を立ち上げられ、また、校区委員会や校内委員会等が設置されるなど、それぞれの実態を踏まえて取り組まれており、その方法はさまざまです。本年５月の段階で移行完了したのが６８種目あるわけですが、受け皿は、新たに設立された地域クラブが４９％、総合型クラブが３５％、スポーツ少年団が１０％、既存の民間クラブが６％となっています。また、指導者であったり活動時間帯であったり、また活動時間、会費、行政からの支援等異なっています。いち早く移行完了した種目の多くでは、まずは受け皿が決まり、そして会場が確保でき、放課後に引き続く時間帯から関わっていただける指導者が確保できているようです。 そこで本日は、すでに受け皿となり活動されている３クラブのパネリストの方々に、その経過を説明いただくとともに、フロアの皆さまから情報をいただきながら、県内市町村の課題であります子供たちの誰もが参加でき、長続きするような受け皿づくり、そしてそこへの協力について認識を深めていただければと思います。 この後の進め方ですが、パネリストの方々から、最初に、小学校部活の社会体育移行に係る市町村毎の方針、検討委員会の設置状況、受け皿となるクラブでの取組みについて、各１０分程度でご説明いただきます。次に、準備の段階で、または取組みの中で生じた課題、そしてそれらの課題をどのような方法で解決したか、またはどのように解決しようとしているか、各５分程度でご紹介いただきます。その後、３０分程度、フロアからの質疑応答及び意見交換の時間を取ります。締めくくりとして、コーディネーターの北園さんにまとめていただきます。 それでは早速、小学校運動部活動の社会体育移行に係る市町村毎の方針、検討委員会の設置状況、受け皿としてクラブで行った取組みについて、また行政からの協力支援とか学校や保護者からの依頼、逆に学校や保護者への依頼などありましたら、それらを含めて情報提供をお願いしたいと思います。最初に、NPO 法人宇土スポーツクラブの安田理事長お願いします。
安田孝二氏（NPO 法人宇土スポーツクラブ理事長）	平成２７年４月現在、宇土市内７つの小学校の４～６年生までの１，０９８名のうち約７０％が運動部活動を行っている状況です。その中で、県は社会体育移行を４年間でという方針を打ち出していますが、宇土市教育委員会は２年でどうにかやりたいとの方針を打ち出しています。そこで、平成２９年３月末に、社会体育移行を行っています。また、検討委員会の設置状況は、年に５～６回、開催をしています。平成２７年６月に教育委員会から検討委員会の開催ということで通知をいただきました。メンバーにつきましては、教育長、教育部長、市 PTA 会長、小学校校長の代表、担当者及び体育主任の先生、体育協会会長、スポーツ推進員の会長、そして宇土スポーツクラブから１名参加して、１１名で編成され、２年間協議を行ってきました。 その中で、各学校の部活動に対して、移行したところがあるかどうか、今どういう状況なのか、また廃部になったのか、などといった意向調査を教育委員会で行い資料としてまとめ

	られ、各学校から報告を受けました。 社会体育移行に関しては早めに情報が入っていたため、２つほど先に動きました。そのうちの一つはスタッフ（指導者）がこの時間帯に動けるかどうかの確認を行い、バスケットとハンドボール（女子）は早めに取組みを行いました。スポーツクラブとして、意見交換や説明を行い、いろんな問題点があるのではないかということでこれまで取り組んできました。 ここからはクラブで行った取組みを紹介していきます。我々はこれをいいチャンスだと捉え、先にプロジェクトチームを立ち上げました。各スポーツクラブで行っている今の競技の種目を説明しながら、スポーツクラブでどういった取組みができるのか、部活動の保護者や担当の先生と話をしながら進めてきました。たとえば、各学校のPTAなどからクラブへ説明の要望がありましたので、２か所ほど出向いて保護者の方へ説明した記憶があります。その中で、現在の社会体育に移行するわけですから、保護者の方たちの「学校部活動じゃない」という意識、つまり部活動に対する意識改革をしてほしいとお願いしました。また、われわれに決まった時点でクラブの会員としてお迎えしたいと思っていますので、しっかり説明をして理解を求めてきました。
コーディネーター（県体協・永田部長）	宇土市の場合は平成２８年度末に移行が完了しています。その中で、宇土スポーツクラブは、５種目程度を受け皿として活動をされていますが・・・
安田孝二氏（NPO法人うとスポーツクラブ理事長）	今現在はバスケット女子、ハンドボール男女、サッカー、種目としては５種目です。
コーディネーター（県体協・永田部長）	活動時間帯はいかがでしょうか。
安田孝二氏（NPO法人うとスポーツクラブ理事長）	みなさんが一番心配されるところだと思います。こどもたちが帰らなくてもそのまま引き続きできるのが一番いいのですが、指導者のほとんどはその時間はムリですよね。そこで、今は、うちのスポーツクラブから指導者として派遣できる方たちにお願いして活動を行っています。
コーディネーター（県体協・永田部長）	開始時間はどうなっていますか。
安田孝二氏（NPO法人うとスポーツクラブ理事長）	１６時半くらいからです。
コーディネーター（県体協・永田部長）	ありがとうございました。次にNPO法人長洲にこにこクラブの橋垣クラブマネージャーにお願いするわけですが、長洲町は県内で最初に町全体が２７年度末に移行を終えています。それではよろしくお願いします。
橋垣真美氏（NPO法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	長洲町は平成２８年４月より小学校運動部活動を社会体育に移行を行いました。長洲町の小学校の現状ですが、４つの小学校で男子は大体バスケット、サッカー、女子はバスケット、学校によっては音楽部もありますし、シーズン制の種目を行っているところもありバラバラの状態でした。 平成２７年６月に長洲町運動部活動の地域連携に関する検討委員会を設置しました。委員会のメンバーは、小学校校長の代表をはじめ体育主任、PTA,体育協会、スポーツ推進員、総合型クラブ、スポーツ少年団など１１名で構成され、年４回の検討会を実施しました。 その中で保護者の意見と学校側からの意見ということで、まず保護者からの意見は、送迎の問題を挙げられました。それと、社会体育に移行するので、時間帯の問題。あと学校側からは、先生方も今後協力をしていかなければならないのではないかというご意見をいただきました。長洲町では、４つの小学校の活動もバラバラで、共通するのがサッカーとバスケットということで、クラブにはサッカーの種目はありましたが、バスケットの種目はありませんでした。それと、文化系の合唱の種目もありませんでした。なので、クラブで行ったこと

	は、男女のバスケットの種目と、合唱のクラスを創りました。創るに当たって、出てくるのが指導者の問題なのですが、長洲町ではバスケットを指導している先生方が非常に熱心でしたので、そのまま引き続き先生方に１年間はお願いをしました。それは、クラブと行政が一緒に行ってお願いをしました。時間帯も当時の部活動は１６時半からだったのですが、先生たちが携わっていただくということもあって、勤務時間外の１７時からスタートしました。１６時半から１７時の間は学校の校長先生にお願いをして、図書室や空き教室で３０分間子どもたちを見守っていただく、若しくは宿題をさせていただくということを行政と一緒に頼みにいきました。なので、１６時半から１７時の間は、４つの小学校はどこかの教室で待っているという状況です。運動部活動をやっていたのは大体３・４年生からのスタートでしたので、クラブとしては、それに伴って、対象学年は１年生から可能とし、低学年から運動ができる環境を作りました。 あとは、保護者の理解が必要ということで、サッカーとバスケットボールに関しては、部活動に入っている児童の保護者もしくは今から入ろうかという児童の保護者に声を掛けて、保護者への説明会を開催しました。もちろん、先生たちは指導者として来ていただくので、謝金が発生します。その謝金は、２８年度については児童生徒のスポーツ環境整備事業を利用してお支払いしました。 ２８年度１年間やってみて、いろんなことが保護者から出てきましたので、クラブとしてもなるべく早い時間帯から開始できる教室を、できる範囲で行う話をしました。１９時半から開始の種目がありましたので、それを３０分繰り上げて、１９時からと見直しをした種目もあります。あとは、子どもによっては、試合には出たくない、出たいということでクラス分けをしました。 移行してからの行政からの今の支援ですが、施設料は減免していただいています。ただし、サッカーに関しては外で行うスポーツですので照明料が発生します。そこは、クラブから受益者負担ということで支払っています。 学校へクラブから要望したことは、１６時半から１７時までの間、空き教室で子どもたちを集めての見守っていてほしいということと、備品の借用、例えばタイマーだったりボールだったりは、引き続き使わせてくださいということです。あとは、試合に出てきますので、ユニフォームが必要になります。そのユニフォームもお借りするようにしました。このユニフォームは、移行して、学校の備品なのか部活動で買った備品なのかをすみ分けしていただきたかったので、教育委員会より各学校へそのすみ分けを依頼していただき、部活動で買った備品は、すべてクラブで徴収をして管理をして、クラブの子どもたちはそのユニフォームを着て試合に出場している状況です。 先ほどお話をしました文化系クラブの合唱は、もともとは音楽部で人数も多かったのですが、募集をかけたら３人しか来なかったので活動が出来ない状況です。そこで、なぜ運動部だけ社会体育になって文化部はならないのかという学校からのご意見がありました。ちょうどそのとき、町内のサークルで合唱している団体がありありましたので、そちらにお話しをしてみたら、ちょっと手伝ってみようかというお話をいただいたので、今は、小学校の音楽室を利用させていただいて、１７時から１８時半まで、週２回、地域の方と先生にお手伝いいただき、今年度は、活動をしているところです。
コーディネーター（県体協・永田部長）	ありがとうございました。長洲にこにこクラブの場合はですね、私たちにもいろいろ情報を提供いただいて、そういうこともあるんだなぁといろいろ感じました。特に、音楽部もにこにこクラブで受けられて、器楽中心だったのをコーラス中心に変えられたわけです。コーラスだったら趣味でされている地域のシニア世代の方々が一緒にやってもいいよということで受けられたということで、指導者というより子どもたちと一緒に楽しむという形で活動さ

	れているんだなぁと、非常に参考になりました。指導者って固いイメージがあるのですが、子どもたちと仲良く一緒に活動するという考え方もできるのかなと思いました。 それから、ユニフォームの活用ですが、これから移行関係に携わる中でそのような問題も出てくると思いますので、これも参考になると思います。 それと会費の問題あたりも、あとでまたお聞かせいただきたいと思いますが、これまで移行しています６８クラブにつきましては、わりと高いです。月あたり２０００円、これが一番多いです。３０００円が次に多いのですが、今、県内の総合型クラブで、子どもたちの年会費というのは、平均しまして４５００円くらいです。それからすると、新しい受け皿でされている部分については、結構高い支払いをされている感じがします。 長洲にこにこクラブの場合は、年会費はおいくらでしょう。
橋垣真美氏（NPO 法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	年会費は６０００円になります。サッカーは別に月謝をいただいていまして、月２０００円、バスケットは試合出場費ということで年間５０００円をいただいている状況です。
コーディネーター（県体協・永田部長）	ありがとうございました。次は NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブの桝田クラブマネージャーにお願いするわけですが、熊本市はご承知のとおり小学校運動部活動は社会体育に移行しないと打ち出されているなかでも、学校によっては移行があっていますので興味深いところです。よろしくお願いします。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	熊本市はどうすればいいんだろうとみなさん悩まれているところがあり、保護者や子どももどうなるのだろうと不安に感じているところがあると思います。桜木ふれあいスポーツクラブでは２つの小学校の校区にあります。桜木小学校と桜木東小学校です。 先日、桜木東小学校で検討委員会を立ち上げ、学校側からは校長、教頭、体育主任（バスケット部顧問）、バトミントン部顧問の４人、総合型クラブ代表の私１人、そして体協の方も来られていました。まず第１回目の検討委員会でお話ししたのですが、どうやっていこうかということで、熊本市では準備ができた学校から移行していくということで、どうしなさいとは決まっていないとのことでした。その内容ではみなさんがどうしたらいいのだろうということになるのでハッキリしましょうということをお話ししました。 隣の桜木小学校では、平成２９年４月から部活動をなくすと言われたのですが、その準備というか段階は一応踏んでいたというか、平成２８年度にはサッカー部がなくなるということをその４月になってから急きょ保護者に告げられました。これは指導者の問題でした。指導者はいるのですが、仕事の都合等で指導に当たる時間がないということで非常に困られていました。そこで、はっきり言って、なくしますと言われました。その前には、桜木スポーツクラブでサッカーが盛んであることはご存じだったということで、そういう発表をされたみたいです。平成２７年にはなくすという動きがあったみたいなのですが、人工芝のコートを作りました。それでコーチも元Ｊリーガーということもあり、サッカーはクラブチームを立ち上げようということで活動しておりまして、平成２７年から桜木小の運動場で、ワンコインレッスンということでやっていました。なので、受け入れてくれるかなぁとは学校側も思っていたようで、相談は１～２回程度しかなかったのですが、今度なくなるよという話だったので、保護者もあわてているため学校より説明会を一緒にやってもらえないかということで、学校の顧問、私、コーチが説明会に入り話をしました。保護者も困った様子でしたが、結果的には学校がはっきりされて、じゃあどうしようという話ができたので良かったと思います。 うちはクラブチームを立ち上げたので、総合型の感覚ではなく、クラブチームに重きを置いていましたので、料金も高めの設定でした。人工芝を使うということで、学校を使うクラブではありませんでした。なので、学校でなければ送迎の問題がありますので、かえって放

	課後ではなく、ちょっと時間をずらした時間で設定することで、保護者も送迎ができるということで、その内容で移行をしていきました。 料金が高いと言いましたが、部活がなくなる救済措置ということで、少し料金を落としました。そのとき、その子たちのみですが。その成果もあり、やっぱりサッカーをやりたいという子どもたちがたくさん入ってくれたので、クラブも子どもたちもお互いによかったと思います。 それを見ていた野球部の方たちも、そろそろ準備を始めなきゃいけないのではないかということで、活発に動かれていた保護者がいらっしゃって、その方が、じゃあ、自分たちも平成２８年まで、６年生の活動が終わるのが２学期のため、その頃までには準備がスムーズにいくように、学校とも話し、私たちとも話してきました。運動場や道具をそのまま使わせてくださいなど学校に対する要望に対して、運動場は無料で貸していただけましたし、道具やユニフォームはクラブのものでしたので問題なく使うことができました。また使える時間も問題ありませんでした。このような学校との話し合いは保護者がされ、私たちにも受け入れていただけますかと話をされましたので、そこは平成２８年の１２月からうまい具合に移行ができたかなと思っています。 それに合わせて、私たち総合型クラブでも、それまでは会費５００円、年会費５０００円（子ども）でなんでもやっていいよということでした。私たちの考えとして子どもが一つの種目よりいろんなスポーツ体験をしようよということで、あなたは野球部に入ったのではなくて桜木ふれあいスポーツクラブに入ったのだから、どれでもやっていいんだよということで、５０００円でやっていました。しかし、その野球部を受け入れるときに、どうしようって、今後また来年子どもが増えてくるなって思った時に、思い切って会費を５０００円から３０００円に落とし、月謝制にしました。月謝は、週１回のクラブは１０００円、週２回は１５００円くらいの金額でやっていくことに決めて、平成２９年度から受け入れたのが、バスケットボール部、剣道部です。 しかし、先ほどから話が挙がっているように指導者の問題があります。指導者で放課後の時間に指導ができる方とそうでない方がいらっしゃって、野球と剣道は放課後にできるという指導者だったのでそうしていただいています。バスケットボールは、すごく熱いコーチが何人もいるのですが夜しかできないということでした。桜木小に熱い先生がいらっしゃったのでその方にお願いもできたのですが、その方に指導していただくと自分たちが教えられなくなるとのことで、先生には引いていただいて、総合型としては夜の活動としてやっていくことに決めました。 料金的なことも、熱い指導者はいるのですが、お金はそんなにいらない場合は、月謝も１０００円、１５００円でいいのですが、野球部は保護者の方が元プロ野球の監督を連れてこられた関係で、指導者だったり場所だったりとお金がかかると、この金額ではうまく運営ができなくなるのはしょうがないと思います。先ほど言われたとおり、意識改革をしていかなくちゃいけないですよという話をされたのですが、私はボランティアでやっていただける場合とそうでない場合があると思うのです。野球の場合は、指導者がそのような方ですので月謝５０００円で了承いただきやっていますが、それでも野球をしたいという子どもたちが集まってきています。サッカーはそれ以上に月謝が高いのですが、それでもしたいといった子どもが来ています。ただ、人工芝でなくてもいいといった子どもたちが、学校の終わった放課後にやれるちょっと値段を落としたもう一つのクラブをやらなくちゃいけないかなと思っています。そうすると、今あるクラブに入ってくれる子どもが少なくなると運営上困るので、私たちが悩んでいるところです。桜木小学校はそのような感じで、部活動をやめられたのでやらなくてはいけないところで、順々にやってきて結果的には上手く移行ができました。 桜木東小学校は今からですが、検討委員会を開いたところ、バドミントン部の人数が非常

	に多いと言われ、他の部がなく、野球部も活動休止になっていることで、その野球部の子どもたちがクラブの野球部に入ってくればいいと思います。ただ最近の子どもたちの傾向として、あまりビシビシされるのが好きじゃなく、もう少しゆるい感じが好まれ、あまり厳しくないほうがいいって言う子が多いけど、そういう子どもたちにでもスポーツを楽しんでほしいので、そういう子どもが活動できる場も必要かなと思いました。 １回目の検討委員会で、来年度にもう総合型に移行していこうよという話になりました。２学期の終わりに保護者の皆さんにプリントなりを出して、こういう風にやっていきます、総合型に移行しますといったご案内をして、３学期には総合型でやっていることを周知していくイベントを何回か開催していくことになりました。２回目の委員会開催を１０月初旬にすることになりました。１回目に欠席されたＰＴＡ会長とそれぞれの部活動の部会長にも参加していただく予定です。桜木小からも参加して話をしてくださるほうがいいですよねって桜木東小の先生方が言われたのですが、桜木小はもう移行が終わっているので、桜木東小で好きなようにやられていいですよと話をしたところです。
コーディネーター（県体協・永田部長）	ありがとうございました。学校の方針を受けて、スポーツクラブのほうが移行を受けたという形で進められているわけなのですが、もう１校、桜木東小がありまして、こちらも今後移行の方向で動き出したということです。 この後、ここに至るまでにいろんな課題があったと思いますが、その辺のところをこれからお聞かせいただきたいと思います。 なお、北園さんがおいでになりましたので、ここからコーディネーターを交代したいと思います。よろしくお願いいたします。
コーディネーター（北園武広氏）	それでは、今までやってこられた中で、各クラブの課題をお願いします。
安田孝二氏（NPO 法人うとスポーツクラブ理事長）	現在、課題となっている事項と、クラブが問題解決に向けて、実際に行っていった取組みについてお話をさせていただきます。 どこも一緒だと思いますが、指導者の問題が一番じゃないかと思います。宇土におきましても、宇土スポーツクラブで協力できるところは協力できますが、学校の施設を使ったなかでの社会体育移行では、なかなか時間帯、１６時とか１６時半とかは、指導者が見つかりません。その次にお金の問題もついて回ると思うのです。県では各クラブあまり値段は変わらないだろうということでこういう指針が出たと思うのですが、社会体育になりますとやはり用具代や場所代、指導者謝金の問題が発生します。ですから料金につきましては、保護者にも説明しますが、はっきり言って「塾と一緒ですよ」という形で、やはりお金はかかりますとお話をしています。 その中でクラブが問題に対して、どこまで実際にやっていけるかということで、取組みとしては、宇土スポーツクラブは「Ｊシステム」を新設しました。要は支援をするという形で、スポーツクラブは、そこの小学校の場所で、指導者の先生がおられて、保護者が協力できるということであれば支援しましょうというシステムです。もちろん、まずは、保護者、指導者も含めてスポーツクラブの会員になっていただきます。それに伴う料金が発生するのですが、それにつきましては、契約の内容によってバラバラです。つまり支援に伴う事務経費をいただくという形でご理解いただいています。２５００円とか３０００円とか、契約内容によって異なってきます。大会に参加する場合は、その日程及び結果報告をしていただきます。また１年間の事業及び決算といった資料の報告をしていただこうと考えています。 先ほども話をしましたように、チームをサポートするわけですから、例えば学校側にもお願いして、まず石灰とか用具とか、学校の倉庫を借りないといけない場合がありますので、われわれは、学校側と連携を取りながら、鍵の受け渡しは全部クラブでやっています。とい

	うことで、連携を密にしなければならず、勝手に走っては困りますと、学校側にはくぎを刺しています。 また、やはり保護者のご理解が一番だと思います。社会体育に移行をするということは自己責任が発生するということをぜひ保護者には理解をしてほしいと思います。 今はこのＪシステムで動き出したところですが、これから増やしていこうとなるとなかなか大変になりますので、その辺は学校と保護者と打ち合わせしながらやっていきたいと思います。
橋垣真美氏（NPO 法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	今後の課題ですが、まず、社会体育に移行をして、スポーツをしない子どもが増えたのではないかなぁというところはあります。あとは、先ほども言われたように指導者不足、そして６年生が卒業したら次に入る低学年が少ないところが課題です。また、早い時間帯での教室開催、１６時半とか１７時とかから各小学校の体育館やグラウンドで何かをしたいのですが、そこに指導者が少ない、不足しているので、今はできない状況です。あとは、送迎の問題と、最近、学校の先生とお話しをしていることで、子どもたちの体力の低下です。保護者はまだまだ部活動っていう意識が頭にありますので、そこの意識改革が今後の課題になってくるのかなぁと思います。 それと連携なのですが、バスケットに関しては引き続き先生方が時間外で今年度いっぱいは携わっていただいているということで、学校との連携のお話はできている状況です。あとは、長洲町はものすごく小さな町で、４年生以上は自転車で図書館だったり町の体育館だったりは行けていました。しかし学校によっては行けないところもありました。そこで、この社会体育移行を機に教育委員会で４年生以上の子どもは保護者の許可が下りれば、町内の公共施設には自転車で移動していいことになったことで、学校から学校への移動も自転車で可能になりましたので、子どもたちの自転車で行動する範囲が増えたところです。 あとは、町内のスポーツ団体、たとえば体育協会とかスポーツ推進委員、総合型クラブ、子ども会等が集まって、スポーツ団体情報交換会を２回ほど開催しています。ここにはもちろん生涯学習課や関係する役場の課も入って、一緒になって考える機会を設けています。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	同じく指導者の問題が課題といえば課題なのですが、指導者ってボランティアでいいよっていう方もいますし、経歴や資格によってはそれでは済まない、ちょっと安い金額ではできない方もいらっしゃいます。しかし、どの方も来年はやっていただけるか、何年やっていただけるかわからないです。キッズバスケットなんか、今、４、５人コーチがいて安い料金でやってもらっていますが、ほとんどが保護者で、自分の子どもが上がっていけばもうしないのかなという不安があります。キッズバスケットは３年生までで、４年生からはミニバスケットですので、そちらのコーチに行っていただければそっちはそっちで満たされるのですが。そのような形で、この人がいつまでやるのか分からないので、常にコーチは探して候補の方にはお話をしています。時間とか曜日とかコーチ次第だと思うのですよね。コーチに相談して、そのコーチができる時間や曜日にするしかないと思っています。今年はこのコーチでこのようにやっていきますとしか言えません。ずっとこの種目はこの時間でこの曜日でやりますとは言えないと思うのですよね。 場所の問題なのですが、いろんな子どものレベルに合わせて、というか勝ちたい、だんだんやっていれば勝ちたくなる、そういう意識の子どもたちのチームだったり、体力維持だったり、趣味程度でやる子どももいるので、どっちも見てあげたいという気持ちはあります。また、夜になると大人の方もストレス発散やいろんなことで体を動かしたいということでやられ、パンク状態です。よって１９時半から２１時半ということで一つの競技しかやっていませんが、それを１９時から２０時半、２０時半から２２時ということで大人と子どもを分けられないか、いろいろ考えています。子どもの競技は、バスケット、バレー、卓球、剣道、

	バドミントンで、バスケットはキッズ・ミニ・中学の３つあります。いろんな競技があるし、その競技の中でもお楽しみレベルから競技力の高いレベルまであり、ものすごくたくさんのクラスになっていて、３つの学校（桜木小・桜木東小・桜木中）の使い方が今後難しくなってくるかなと思っています。
コーディネーター（北園武広氏）	それでは、フロアの皆さまから質疑応答を受けたいと思います。
岩永氏（NPO 法人うとスポーツクラブ）	Ｊシステムの補足をします。部活動から社会体育へ移行する際に、今の学校のいろんなチームで条件や事情がさまざまで、費用や鍵の受け渡しなどさまざまなため画一的なやり方や値段ではできませんでした。そこで、われわれクラブは一品料理でカスタマイズにより、鍵の受け渡しや会場の予約などそれぞれ１品ごとにおいくらかかりますという感じで、それぞれにかかる費用を細分化しました。ある部活動が移行によりご相談いただいたときに、どこまでクラブがご協力したらよろしいでしょうかといった交渉を一つひとつのチームとして、ここはしなくていい、ここはしてなどといった内容を細かくカスタマイズして値段と条件を決めて契約をしてスタートしたのがＪシステムです。 それまでは、教室、サークル、アカデミーといった感じで分けていたのですが、それでは対応できなくなったために始めたのがＪシステムです。 さて、お二人に質問ですが、指導者も問題が課題ですとありましたが、われわれのクラブでも課題でもあります指導者の資質向上に対してどのように対応されていますか。
橋垣真美氏（NPO 法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	指導者の資質で、今すごく頭を悩ませているところです。にこにこクラブは今までは指導者研修会などクラブで開催することはありませんでした。移行して１年、２年目に突入していきますので、これを機に指導者研修会を２回、１０月と１１月と開催することにしました。あとは、県の研修会にもどんどん参加していただいて、それが何かしら反映できるようなシステム的なところを作っていこうかなと考えています。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	うちも指導者にはちゃんとやらなくてはと思いつつ、あまり出来ていないところがあります。昨年は県の研修会になるべく出てくださいということで全員のコーチにプリントをお渡ししたらほとんど受けていただきました。ということで、これを活用して、毎年受けていただいたらいいかなと思っています。見ていると問題ある指導者はうちにはいないように思います。去年はＡＥＤの講習をしたなって思い出しましたが、クラブとしてもそのような機会を作っていかなければいけないなって思っています。
コーディネーター（北園武広氏）	私からは、手持ち資料の中に、地域にお住まいの先生方を指導者として登録する方向性を検討中とあるのですが、誰が任命するのか、どこが窓口になるのかなどは、検討委員会の中で話をされているのでしょうか。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	先日の桜木東小での第１回目の検討委員会で、先生方が地域に戻ってお住まいの地域の総合型の支援でも、自分が勤めている学校での支援でもどちらでもいいのでやっていただきたいですねという話は出ました。部活動を一生懸命やりたいといった先生方もいらっしゃるのですが、そういう先生方がいつまでいらっしゃるかわからなくても、いらっしゃるのであれば使わない手はないと思います。そういう先生がいらっしゃったら、受け皿は来年から桜木ふれあいクラブでしましょう、そこに学校の協力をしていただける、なおかつ学校の先生もクラブに登録していただいて兼業申請を出していただいて、クラブからほかのコーチと同じように謝金を払っていけるシステムを作っていきたいですねというようなことを先生方とお話しすると、先生方からは、そのようなことは自分たちも考えていたと話されました。そのようなことで、桜木東小とはうまくやっていけたらと考えています。その場合はクラブの代表というか理事長・会長なりが間に入って、クラブの考え方なり指導の仕方なりをお話しして併せていかなければいけないと思います。

コーディネーター（北園武広氏）	指導される学校の先生方には理事長からの任命ということになるのですか。
桝田康代氏（桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	あくまでも来年からは、決まってはいないですがその方向で動きましょうということになっています。移行してまだまだきちっといかないかもしれませんが、そういう方向でいって学校にも応援していただいて、その次の年からスムーズにいければいいねって話をしています。あくまでも、ふれあいスポーツクラブがやるということで、クラブの代表になる人が決定・任命して委嘱状なりを出していく形になると思います。
内山氏（託麻西校区総合型スポーツクラブ）	総合型には理念というものがあると思いますが、社会体育移行を受けるにあたってもどのような形でされているのでしょうか。
安田孝二氏（NPO 法人うとスポーツクラブ理事長）	我々スポーツクラブも大きな理念を抱えています。事務所にも飾っていますが、「どこでも、」だれとでも、いつまでも」という理念のもとに、宇土市民総スポーツ参加を目指してやっており、そこは譲れないと思います。自分たちで決めたところ以上にはしたくないという根本的な理念は持ってらっしゃると思いますが、大きくなりますと、特に３０プログラムくらいから始めて今は５５プログラム程ですが、社会体育移行に関しては少し幅を広げながらやっていかないとできないのではないかと思います。ただ宇土市民全体に対して総スポーツ参加をやるんだという理念のもとにやっていますので、その理念だけは忘れずにやっていきたいと思います。
橋垣真美氏（NPO 法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	循環型のシステムを作ろうということで、小学生から始めて大人までずっとスポーツに携わって、その子どもたちがまた地域に戻って地域の指導者として循環していこうという理念があります。でも、種目によっては過熱化しているところもあります。なので、中学校になったらしないとかそういうところも出てきており、そこは指導者と随時話をしながら、うちはあくあくまでもここまでのラインですということで、最初に戻ってもらうことを心掛けながらやっているところです。そこに賛同してもらうということで、何度も何度も言ったこともあります。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	「いつでも、だれでも、どこでも」という感じで理念を掲げています。明るく楽しいまちづくりということで、青少年育成ということも掲げていますが、できるだけたくさんの人にスポーツに携わって楽しんでもらいたいなということをいつも思っています。子どもいろんなスポーツをやってもらいたい、大人にもスポーツを楽しんでもらいたいということで、健康体操を入れてみたりといろんなことをやっています。部活受け入れの件で悩むところはあるのですが、競技性に走ることはいけないということではないのですがニーズにあったものができればと思っています。だけど、誰でもできて楽しめる部分を残しながら、競技性の部分もということで、先ほども話ましたが一種目で複数のクラブも必要ではないかなと思いますが、すべての種目ではとまでは思っていません。たとえばサッカーやバスケットは今のところ２つに分けないといけないかなって思っているところもあり、そこは毎年違ってくることだと思います。そこを調整するのがクラブマネージャーの役目だと思っていますので、その年その年で考えていかなければいけないことかなと思います。コーチの件も先ほどから出ていますけど、これからたくさん抱えていくであろうコーチ全員で理念を理解していただいてやることは大切なことだと思います。
嶽本氏（NPO 法人スポレク・エイト）	総合型に中学生も参加してほしいと考えているのですが、中学生はどのようになっているのか、小学校の活動から上がったときの中学生への対応をお聞かせください。
安田孝二氏（NPO 法人うとスポーツクラブ理事長）	宇土市内には３つの中学校があります。実際、中学校部活の社会体育移行はまだでやっておりません。スポーツクラブでやっている小学校４～６年生は、中学校に入れば部活動に入りますのでありませんが、個人的レベルでのクラブへの受け入れはあります。
橋垣真美氏（NPO 法人長	種目バドミントンがあるのですが、バドミントンの指導者が中学校部活の外部指導もして

洲町にこにこクラブマネージャー）	います。少ないですが、中学校の部活をしながら、にこにこクラブへ入ってきている子どもはいます。それとバレーボールが小学３年生から中学生までと幅広く募集をかけているのですが、そこは会員にならず、にこにこクラブでバレーをしていた子どもが中学校に行って吹奏楽をしながら、夏休みにバレーに何度か参加するというような感じではあります。よって、そこまで中学生の人数が増えているといったことはないです。でも、何かしら中学校との兼ね合いも考えていかなければいけないかなと思います。
桝田康代氏（NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	桜木では、部活では物足りなく練習をもっとやりたい、特にバスケットボールには中学生がたくさん来ています。それと卓球も同じく練習が足りないというか、桜木中の卓球部がなくなったことも大きな要因だと思います。ゆるいほうがいいという子より、もっとやりたいという子が来ている状況です。バドミントンでは部活動に入っていない子がクラブに来ていることがありました。夜間にやっていますが、中学校になると体を動かしたいというより、夜間に家から出たいという子がいるのでしょうか、あまりよろしくない感じで、来てもしゃべっているだけの子がいたので、そのような子が増えると困るということで、バドミントンでは中学生はやめました。部活には入れないけど、本当に体を動かしたいという子はどうにかしてあげたいとは思っていますが、中学生は少し難しいところがあります。同じ状況の子でも、高校生は大人として扱いクラブに来ています。うちのサッカーのコーチもそういう子を支援してあげたいという気持ちをもっていますので、そういう部活に入れなかった高校生は支援しています。中学生は年齢的にも難しいところですが、やってあげたいという気持ちはあります。
栗崎会長（長嶺地域スポーツ）	学校の先生の関与は全くないのですか。
安田孝二氏（NPO 法人うとスポーツクラブ理事長）	小学校の先生はありません。ハンドボール、バスケットボールは協力をいただいてるかと思います。
橘垣真美氏（NPO 法人長洲町にこにこクラブマネージャー）	２８年度は部活の顧問の先生にお手伝いをしていただきました。サッカーに関してですが、２９年度は先生たちは携わらずクラブでしています。バスケットボールに関しては、あと１年したいという先生のご意見がありましたので、そこはクラブとしても嫌とは言えず、今年度までは先生たちが指導に携わります。
桝田康代氏（桜木ふれあいスポーツクラブマネージャー）	移行しているのが伝わっていなく大会の案内が学校に送られている場合がありました。それに伴い、学校よりこちらに届いてますよとの連絡はあります。けれども、場所を提供いただくくらいで、今のところはありません。
コーディネーター（北園武広氏）	学校との連携の前に先生方とコミュニケーションを取っていかないと、なかなか連携は難しいと思います。頻繁に学校へ足を運びながら、体育主任の方々といろんな話をしていく中で、土台を作っていくことが大切ですが、１年や２年でできるものではないと思います。今後、３１年度から移行になりますが、その姿勢で入っていくなら、学校の先生方も理解されて協力的になってこられるのではと思います。 それでは時間なのでまとめとしてを話します。今回の研修会の狙いをお話させていただきますと、３人のパネラーの方をお招きして、地域ごとの小学校の部活動からの社会体育移行に関して、動きとか背景とかが違っていました。ただ決まっていたのは３０年度末までに移行するということです。最終的に考えたら、それが最終目的ではないと私は思っています。やっぱり小学生の年代に合った心身の健全育成におけば、３１年度以降も地域ぐるみでスポーツの環境を検討していく必要があると思っています。八代市の場合は、平成３１年度以降も検討委員会の名称を変えて、八代っ子クラブ連絡協議会という新たな名称のもとで、各校区に、２３くらいあるのですが、全部に校内委員会を設けて、その校内委員会も３１年度以

	降も、ずっと継続をしていく。そこでいろんな問題や課題が出てくるのですが、それを市の連絡協議会へ話を持っていきながら、お互いに長い目で解決していこうという姿勢を貫いてやっていきます。この話があった最初のときから検討委員会に理念を作って、その理念のもとでやっていきましょうと旗を振ってきた経過があります。どこも受け皿は総合型ありきとなっているようですが、八代の場合は、４つしか総合型がありません。よってすべての校区を網羅することはできませんので、総合型があるところの話をみなさんに聞いていただいて、ないところの校区には総合型の考え方を持った移行クラブといった形を作っていきましょうというふうに今はやっています。ですので総合型を作るのではなく、総合型の考えを元にした移行クラブを考えていきましょう、そして移行したクラブに関しては３１年度以降も連絡協議会の傘下に入っていただけるのであれば、ずっと見守っていきますよというふうにやっています。

分科会２「今後のクラブ経営」まとめ
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ ひかわスポーツクラブ　ｸﾗﾌﾞﾏﾈｰｼﾞｬｰ　齋藤久允　氏

【今後のクラブ運営】
これからの総合型は・・・わからない、このままでいいの？、何が正解？　不安がいっぱい

（課題）・人材不足・財源の確保・次世代スタッフの確保・施設の確保

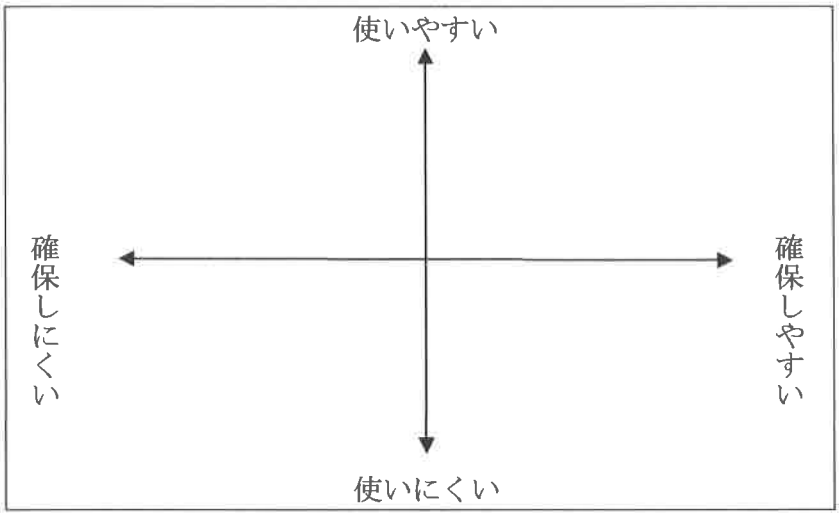
【財源の特性】
- 皆さんの求める財源とはどれ？
- どの財源で「課題」解決されますか？
- その財源は

【財源とは】収入を生み出すこと。必要な金銭またはその出所

【総合型地域スポーツクラブでの財源の種類】

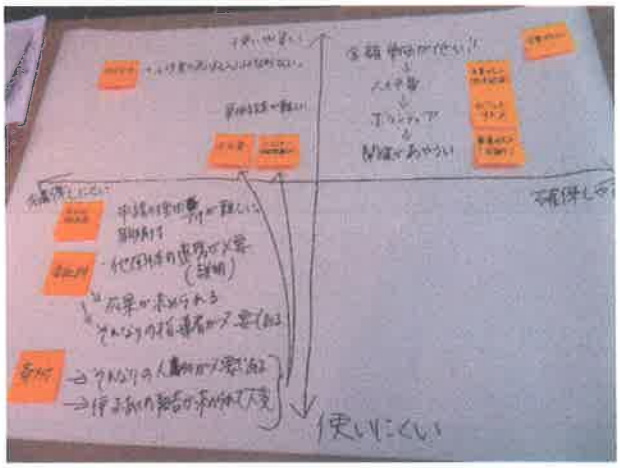
①　会費　②スポンサー料　③広告収入　④事業収入（ｲﾍﾞﾝﾄ、会場使用料，教室参加料など）
⑤指定管理料　⑥助成金・補助金　⑦　寄付　⑧委託料

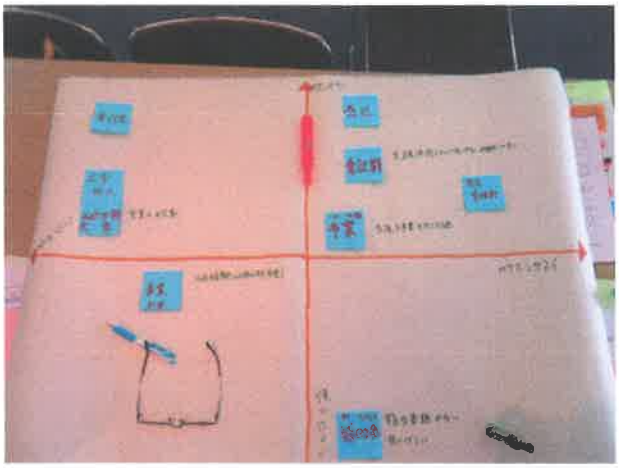
【グループワーク】
広用紙に縦軸　上　使いやすい　下　使いにくい
　　横軸　左　確保しにくい　右　確保しやすい
⑧種類の財源をふりわけ、その理由を書いてみよう！

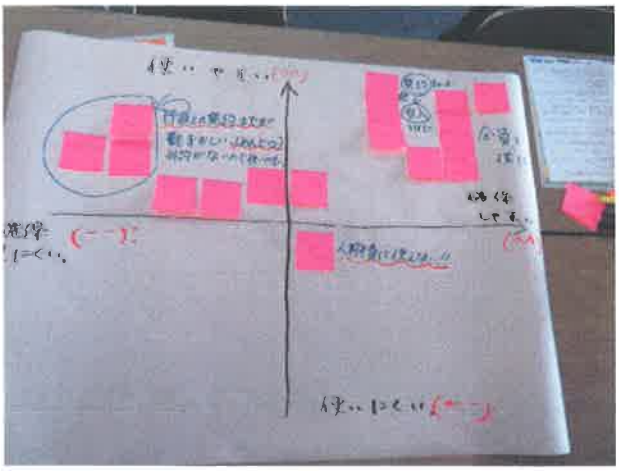


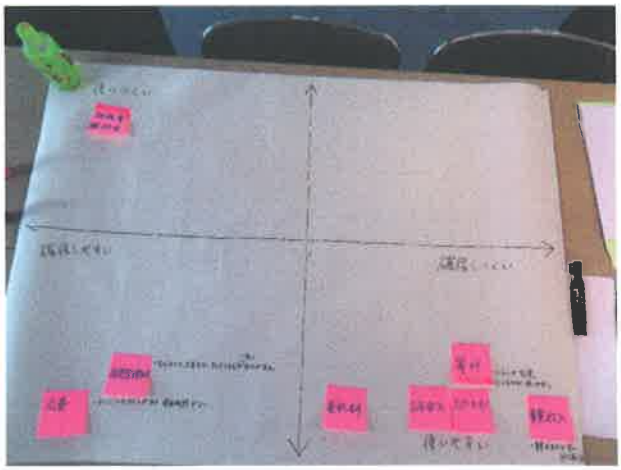
【ワークを比べる】
他のグループがどのような振り分けをしているかを見てまわり、比較してみる。
同じ種類の財源だけど、それぞれのクラブでは使いやすかったり、使いにくかったり
確保しやすかったり、しにくかったり、理由もさまざまでそれぞれ違う。

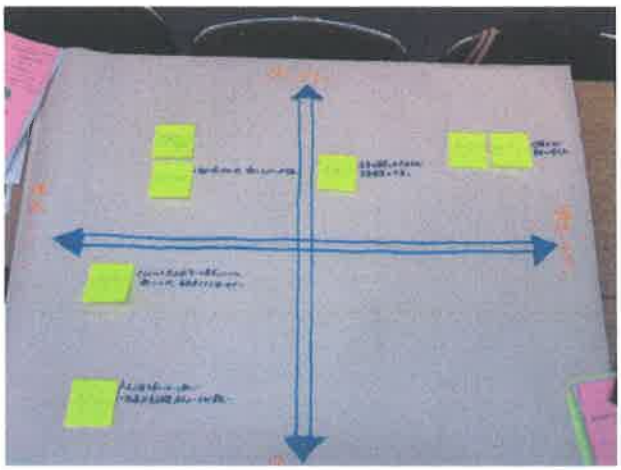
【全体まとめ】自分ワーク
- クラブで確保できそうな財源はあるか！
- 必要なことは何か
- 明日から自分がすることを決めよう！


使いにくい









講演　「熊本地震からの地域復興とクラブの役割」まとめ
講師　NPO 法人クラブおおづ　ゼネラルマネジャー　斎藤陽子　氏

皆さん、こんにちは。今日は長い時間おつかれさまです。これから１時間少々お時間をいただき、主に鹿児島で話させていただいた内容を県内の方に広く聞いていただいてないという現状がありますので、その内容を中心に発表させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

平成２８年度、地震が発生した年に、九州クラブネットワークアクション in 鹿児島で、熊本の現状を報告してほしいとの依頼があり、御支援いただいた他県の皆さまへのお礼を兼ね、ぜひ行きましょうということになり、熊本から参加をさせていただきました。

まず、熊本県の現状として、総合型で６８クラブ、準備委員会が３クラブとなっております。こう見ると、県内各地にクラブが設立されていま。この現状の中、地震が発生しました。４月１４日前震がありましたが、県内１６市町村に避難所ができました。昨年１１月に熊本県最後の避難所が閉鎖されましたが、仮設住宅やみなし仮設へ移動するような時期だったと記憶しています。これは新聞にも載っており、私たちも注目していつも情報収集しているところですが、こういった情報を鹿児島で九州全域の方に聞いていただいたということになります。

まず、緊急時に考えたことですが、皆さんはクラブの運営で活動に参加されている方だと思いますが、地震のように、突発的に、被害・災害が起きたときに、何を一番に自分で考えるのかなと考えました。それぞれの状況で違うと思いますが、もちろん家族といるときには家族の状況が分かりますので、クラブのこと、職員のこと、仕事のこと等を考える課と思いますが、やはりそういったことは、常日頃から考えておかなくてはならないと感じました。

私はマネージャーという仕事をしています。うちには９人、職員がいます。私が一番に考えたことはこの職員をどうするかです。地震直後に思ったこと、これは絶対に忘れてはいけないことだと思います。その選択を瞬時にしてどこに連絡をしてどんなところまで考えるというのはあとでお話ししますが、やはり、被害・災害の発生直後は、ほぼパニック状態です。周りにいる人もパニック状態です。人のことなんて考える余裕はほんとにないです。みんな、自分のことで精一杯だったと思います。

九州で発表させていただいたときには、そこから総合型クラブとして活動している市町村の被災状況とその活動内容というのを主に報告をさせていただいております。

～地震の写真説明およびエピソード～
①南阿蘇村　②益城町　③宇土市　④阿蘇市　⑤熊本市
～各クラブの活動紹介～

大津町ですが、私たちの拠点のところは全て使えませんでした。では、どこで私たちはクラブ活動をしたらいいのか、スポーツ以外の活動を持っていないので、わかりませんでした。

では、ボランティア活動をやる！といっても、日頃からしていることではないので、誰に声かけていいのか、誰が大丈夫なのか、手探りの状況でした。こんな状況を鹿児島でもお話させていただきました。

次に私自身のお話をさせていただき、どうやってクラブの活動を継続してきたのかということを、みなさんは「私だったらこうする」という風に、考えていただくといいのかなと思います。

平成２８年度に熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催で行った研修会で、「東北の復興」をキーワードにした内容があり、その中で、「クロスロード」を私たちは学びましたよね。

緊急時にどういう選択するかという話でしたが、まさにその話を聞く前に、熊本県は地震が発生し、実践が先にきてしまったという状況です。

前震があった日、皆さん、何をしていたか、明確に答えられますか？皆さんが、これからいろ

んなところに出ていったとき、そういう話になると思います。
「私はこうだった」という話を人に聞かせることで、それがいろんな方々の情報になりますので、こういった経験を伝え広める役割が私たちにはあるのではないかなと思います。

～本人の地震体験話～

私たちクラブが考えておかなきゃいけないこととして、活動の拠点である体育館等がほぼ避難所になってしまうので、このようなときに「クラブで何ができるのか」「どういうことをやらなくてはならないのか」ということを考えておく必要があると思います。
最初に、町が指定する避難所が１７か所程度ありましたが、それだけでは全く足りない状況でした。家屋の屋根が崩れて建物に入れないような状態で、車に避難している人がたくさんいました。誰かとなく空いている場所を見つけて勝手に占拠し、臨時避難所を作っていました。指定避難所にいる人には町や国からすぐにおにぎり等の物資が届きますが、それ以外のところには配付がありません。そこで、不満はたくさんでてきて、SNS でいろんなことをつぶやくと、それを見た全国各地からが一週間程経過してから大量に物資が届くのです。やはり、災害時に被災地の情報を見て、自分たちで動いてくださっている人たちがたくさんいることを心から感じました。近隣からの援助はとても早いし、ありがたく、そして安心して活用できるのでいいなと思っていたため、町が認知している以外の避難所を開設し、ここにどんな物資があるかを書き出し、情報を発信することをいち早くやりました。いろんな団体や若者と協力して実施しました。
支援物資として弁当がきたら、これは町の公的なところなので一人１個しかもらえません。みなさん、配る役を手伝った場合、１人１個と言われたら１個ずつ配ると思います。でも、「うち５人家族です。」と言われたら、皆さんはどうしますか？５個渡しますか？実際５個渡すとおこられるんです。理由は、本当に５人家族かわからないからです。だから、ほんとだったら足りません。こんなに抱えている人ともらえない人と格差があるから、渡しはこれが一番つらかったです。高齢者は、お弁当の配付のため長蛇の列にずっと並んでいれません。幼い子もそうです。水の配付の際は、２時間待ちでした。それを一人１本ずつだからと言って、並んでもらって食べたら、次の配食に並ばないといけないような時間です。これはなんなのだろうと、不安が勃発しました。心がすさんでしまっていました。
だから私は、言われた数配りたいと思いました。何個でもあげたいって思いました。なので、自主避難所を立ち上げて、地域の団体さんと連携していたら、支援物資が集まってきました。朝からおにぎりを２０００個握りました。もう、手がやけどをするくらい、ほんとにきつかったです。
ある施設だけ電気が仕え、電気のヒーターだったので、ガス釜でガスももってきてもらい、ごはんを炊いて、みんなで米は家にあるもの全部持ってきていただき、近隣の飲食業組合の方なども営業できないのだから、食べ物全部持ってきてもらい、ここだけは物資を何個でもあげようと話、来た人に５個って言われたら５個あげたいという思いでやりました。それを聞きつけて、商工会青年部とか青年会議所とか集まって一緒に協力いただいたのですが、結局、配れきれませんでした。住民の方たちも、どこに避難所ができているのかわからないので、はけることができませんでした。何千食、何万食と国から食糧が届きます。それもものすごい量が。それを、どこにもって行ったらいいのかわからなくて、ここに余ったのを持ってこられるようになりました。これどうにかしてと言って。
物資としていただいているものを捨てたら、批判されますよね。しかし、腐ったものは提供できないです。感染症等の問題も考えられます。２週間水が使えなかったので、水だけには苦労しました。こういう状況の中で、２４時間開放して、みんなで食べ物を集めたり、配ったりという繰り返しでした。
また、ずっと長蛇の列で、いろんなものをもらいに来ていました。お母さん方が、一人３枚お

むつもらって、次、いつもらいにくるのでしょう。全然足りません。全部あげたらいいと思ってしまうけど、あげることはできないのです。一枚ずつとりに来てくださいということになってしまうので、私たちが開設した避難所では、状況をよく見ながら、足りないところにあげるという役割ができてよかったなというふうに思っています。

私のおうちは車でした。３か月間、車の中で生活をしていました。私は、地震で家をなくし、家族は避難所にいきました。

実際、ボランティアしている人は、隠れてごはん食べなきゃいけないくらい、みんなが心すさんでいました。「あんたたちは食べよっとでしょう」等、いろんなことを言われました。当然、食べていません。複雑な思いがありました。

県内では、ピーク時だと１８万人を超える避難者がおり、避難所は数えられているものだけで８５５、実際はそれ以上あったと思います。

チーム熊本でがんばって、乗り越えてきたか、今があると思っています。私もボランティアセンターに登録しなければいけない、もしくはここではなくても、同じような効果がある仕事をやらなければいけないと思いました。

もちろん、避難者が駐車場にたくさんいるので、エコノミー症候群のチラシを配ったりとか、いろいろ実施しました

阿蘇市の NPO 法人火の山スポーツクラブさんは体育館を巡回され、運動指導をされていましたが、あれは行政が牛耳っています。「やらせてください」と言ってもダメです。それぐらい避難所はもめていたのです。子どもがうるさい、臭い、食べ物がないとか、不満だらけでした。そんなとき、私たちがいろいろ実施できる状況ではありませんでした。

そんな中、ボランティアセンターが４月２２日に立ち上がるというお話を聞き、マンパワーが足りないとのことだったため、クラブの職員と営業にいき、ボランティアセンターの立ち上げの仕事や役割をいただきました。ボランティアスタッフとして登録しましたが、「災害ボランティア」では、被災した家でがれきの撤去など自分でできない人たちが、助けてほしいというニーズがあり、そこに協力できるボランティアをマッチングさせていくところです。しかし、現状はそれになかなかマッチングしないという状況があります。

また、ボランティアセンターの中でも、赤紙や黄紙が貼られた家で、中に入れないところばかりでした。そうなると重機という専門家が必要となります。

このような中でも、いろんなニーズがあるときに、若者が率先していろんなところへ行って片付けをしました。私はマネージャーですが、専門は「運動生理学」です。地震後、お話するときに、運動とストレスの関係性に話しましたが、ここでは運動は楽しんでしてはいけないような空気があります。実際、運動やスポーツどころではないという話がありました。スポーツは楽しむものですが、震災後は「楽しみましょう」と言えない状況でした。でも、だからこそ、運動をすることは大事な時だったと思います。

子どもたちは避難所で、暴れるな、やかましいといわれ、遊ぶことはできませんでした。体育館の外に広い芝生があるのに、安全かどうか分からないため使用できない状況でした。

私は、図書館で、運動やストレス、ホルモンの話を含め、運動の効果について生理学的に話し、心のストレスを軽くするような本の紹介等もさせていただいく授業をやりました。

他にも、「お外で遊ぼう」という事業を４月２８日に実施しました。もっと早くやりたかったのですが、全然、場所を貸りることができませんでした。

初めてここで、町民同士が会って情報交換ができるんですよ、お母さんとか子どもとか、遊ぶ場所がなかったことや、どうしたらいいの？という相談とか、学校いつ始まるのかなど、そんな情報交換ができるようになりました。

このときのクラブおおづの Facebook ページは、何万人という方々が見ていました。それだけ情報を必要とされていることがわかりました。

それから、ボランティアセンターに風船プールやマジックができる人などをマッチングし、実

施しました。
地震後、どんどん物資が着ました。しかし、その情報は１か月前の情報ということもありました。
そこで私は、この「情報」について考え、一つの情報をたどっていくってことをやってみました。誰が言ってどこが発言したのか辿ったところ、結局は、１か月前、ひとりの人が助けてくださいと言った情報が、ずっと巡り巡って、１か月後に現地に来ていました。
そこで、情報を見て「助けなきゃ」と思った時には、現状を、今どうなっているのか、今本当に必要なのかというのをアプローチしてほしいなと思います。
全国から送られてくる物資には、温かいメッセージが書かれている物もあり、励まされました。重い水の箱を運びながら、いつまで続くのだろうって思いながら、「明日がある」と書いてあるのを見ると、いつかこの人に会いたいとさえ思いました。
そして、県内で最後の避難所が１１月１８日に閉鎖されました。
「復興」というのが、なんとなく地震発生から１年以上経過し、普通の生活に戻ってしまっているような気がしているかと思います。しかし、地震があってから、水の１滴の大事さをほんと子どもたちと感じていたのに、公園に水が出るようになって、２週間後、水風船のおもちゃのカスがいっぱい落ちていました。あれだけ水を大事にしていたのに、子どもたちは何をしているんだ・・・と頭きました。でも、やはり子どもたちもストレスが溜まっていたのではないかと思うのも今の本音です。
こういうことを大人が伝えていき、ここから学ぶことをやっていかないといけないと思います。これは私が決意したひとつの出来事でありました。
それから、災害ボランティアセンターの立ち上げをやっていたため、地域の支え合いセンターというところに移行しています。支え合い事業です。そこで、クラブおおづで「健康づくり」の部分をやってくださいという相談をいただいたので、ここに関わってやっています。仮設住宅ができて、巡回する活動をしていますが、復興玉入れや編み物もここでやっています。なかなか体を動かす機会がありませんが、いろんな人と玉入れをやったり、私たちはキャンピングカーを借りて、そこにつけて、ちょっとお茶のみに来てよって言って、いろんな話をしたりしている状況です。
避難所から仮設住宅に移りましたが、仮設に行ってもいろんな支援物資をいただきながら、仮設のところへ持っていくという、日々、こうやって寄り添っていくといったことをしています。仮設も一戸も減っていないし、これから災害公営住宅に移っていくという話ですが、全然進んでいないようです。
土地の問題ですとか、解体もできないような人もいるし、もう予想もしないようなことがいっぱい出てきて、様々な揉め事に発展したりもしていますので、やはり日々の生活、準備をしっかりしていくということがとても大事だと思います。それと、クラブができることに対して、こういう経験を私たちはほんとに支えていただきました。これからは周りに伝えていく役割があるのではないかと思っております。
ほんとに、そのときどきで、何が必要で何ができるのか、クロスロードで学んだ考えを常にやっておくということと、こういういろんな経験を聞いて、自分だったらどうしようかなとか、どうするかなというアイテムを持っておくということが非常に大事だと思います。そして、クラブを継続していく、支え合い事業は、やって一番思うのは、あの事業って国がお金出しているからどうにか成り立っていますが、もう終わりです。
その後、その事業なんか終わっても、復興は全然終わっていません。復興って何なの？　それは、元に生活が戻るとか、熊本城がきれいになるとか、そういうことではなくて、やっぱり、心が復興したときに、初めて復興と言えるのではないかということを学びました。地域に寄り添っていけるのはやっぱりクラブしかないのかなと思います。継続していくと、一番の支えになると思います。

私が学んだこと、それは日ごろからの地域活動の大切さです。

日ごろからやっているから、地震の時も「一緒にやろう」って思っていただけたと思います。そして組織間のネットワークです。熊本県はほんとにクラブ間の仲がいいので、いろんなところに頼めば、私は絶対やってくれるという自信があります。「これだったら、〇〇さんに頼もう」とか、助けてって言える関係性、ネットワークってものすごいと思うんです。クラブで課題を話し合って、連携による解決策が絶対出てくると思います。だから、クラブってすごいなって思うところがありますし、ネットワークの力ってあるんだなということを感じました。

あとは、この経験を伝えて、意見を交わしていくことを続けなければならないというふうに思います。みなさんもいろんなことで声かけていただいたなら、地震後のことを、聞いたことでもいいので、伝えていってほしいなって思います。

いかに今までの私たちが幸せだったのかということを感じるきっかけにもなりました。だから、次に何かあったときに、どうしたらいのってことを考えなきゃならないと思っています。

私は今まで真剣に生きていたかな･･･と自分を振り返りました。今まで幸せが当たり前で、やってもらえるのが当たり前、責任も持たずにやってきたのではないかなと感じ、これからは真剣に生きなきゃいけない！と思いました。

私は今、みなし仮設のアパートに住んでいますが、子ども二人で、大学生と高校生、女の子と男の子と私、１K です。仮設住宅に申し込みましたが、「若い人ダメ。高齢者・一人暮らしから」って言われ、申し込めませんでした。私は不動産屋に行って、いろんなところに申し込みましたが、入れたのが８月です。これまでずっと車や野宿をして生活していたので、やっと家の中で、床で寝れることは大変うれしかったです。慣れない環境で住むストレスもあり、兄弟喧嘩もありましたが、それでも、このような経験ができたおかげで、家族では日ごろ話せないことも話せるようになったことをポジティブに考えていこうと思っています。

私たちがやらなければならないことは、まだまだたくさんあると思っているのですが、これからチーム熊本で、みんなで盛り上げていってがんばっていければいいかなと思っています。

平成２９年度熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会　アンケート結果　まとめ

○配布数115枚

○回収数68枚　　回収率59.1％

○全体満足度　　3.24点　（四段階評価）

○分科会１参考度　2.33点　（三段階評価）

○分科会２参考度　2.39点　（三段階評価）

○講演参考度　　2.35点　（三段階評価）

＜感想＞　回答数115名中25名

・小学生の生活環境を考えたとき、クラブの実施できる時間が本当に午後6時から8時などは、果たして正しいのか疑問。学校の先生方で心にゆとりのある方は、これからも最大の協力をお願いしたい。

・社会体育移行について、行政から講師謝金の補助金などがあるところはあるのでしょうか？

・当クラブは現在学校側などとは調整中です。既に立ち上げたクラブの意見を聞き、参考になりました。

・講演は、地震の被害の報告？その後の活動が聞きたかったです。情報交換会で話すような内容が多かったのでは？

・社会体育移行についての話が聞けてとても参考になりました。

・震災後のクラブの復興への係わりや役割がよくわかった。

・小学校運動部活動の社会体育移行の面で、現に社会体育に移行した地域の話、または課題を聞くことができ、参考になった。

・分科会2に参加し、財源についてフォーカスしたものだったが、各クラブの課題が少しずつ異なる中で、本当の課題についてや成功例について、コミュニケーションできる場がもう少し増えると良いなと思います。

・大変ためになりました。ありがとうございました。

・クラブ間相互の助け合い（会場の融通など）ためになった。これからは指導者についても同様のことも考えられないかと思った。

・総合型クラブと民間クラブの分別ができていなかった。技術指導者だけをもっているので、本来の総合型クラブの理念がおざなりになってしまっている。会費の値上げ等もみんなの了解を得てすべきであり、種目間に差がありすぎるとトラブルが必ず発生する。

・災害時の対応等をクラブでもマニュアル化する必要があるんじゃないかなあと思った。

・斎藤さんのパワフルや行動に感心しました。うちにもそんなスタッフがいます。

・発足時の課題・現状の課題をもっと詳しく願いたい。

・熊本地震の時などの様子を聞いて、私は県南なのであまり被害がなかったので、身近には考えていなかったのですが、心の準備は必要なんだなと感じました。

・講演について、大なり小なり自分たちが実施したことであまり参考にはならなかった。

・教員の負担を減らすために社会体育移行するのの、教員を指導者へというのはどうでしょうか？元教員の方々なら、子どもたちの指導もなれているし、学校とのやりとりがスムーズだと思います。学校側、PTA側の意見も聞きたかった。

・分科会2に参加しました。やっぱり話すのは時間があっという間でしたね。明日からやる気スイッチをONにしてクラブのために何ができるのか、考え行動！

・近くに活断層があり、「熊本地震」以来地域の危機管理に対する意識に変化が見られる。今日の講演大変参考になりました。日頃からの地域生活の大切さを感じました。

・行政からの参加でしたが、＜分科会1＞総合型クラブの関わりが強く、将来の子どもたちのスポーツ環境を良くしたいという気持ちが伝わった。各自治体、課題がある中、総合型クラブと協力しながら進めていきたい。

・色々なクラブや意見がある中でファシリテーションするのは大変だったと思います。良いきっかけ作りになりましたが、テーマ（目標）を決めて、ひとつの課題だけでなくいくつかの課題を取り上げ、この課題の解決策はこれこれとつながっていくといいよねなどといった事を聞いてみたいです。

・分科会も講演も大変参考になった。

・総合型のスムーズな運営には、クラブマネジャーの役割・存在が大変大きいものがあるが、そのクラブマネジャーはどのようにして選ばれて、報酬などはどのようになっているかお聞きしたいと思います。

・社会体育移行に関しては、色々な問題があるのを痛感した。難しいですね。私たちの町（球磨郡）では、高齢化・少子化で指導者もあまりいない状態です。

・クラブおおづ先生のお話は笑いもあってすごくよかったです。私の地区は地震の被害はありませんでしたが、話・発表をみて地震の怖さもわかったし、ボランティア活動も素晴らしいと思いました。

＜どんな研修会・講習会があれば参加したいか？＞　回答数　115名中15名

・独自にできる指導者研修会の参考事例

・学校とクラブがうまく協力できた社会体育クラブがあれば紹介してほしい。指導者料金の決定をどうされたか？

・クラブ開設以降10数年が経過し、当初からの会員も恒例になってきました。
高齢者に適したスポーツ（プログラム）を紹介してほしい。

・復興の内容が知りたいです。

・指導者養成の講演などがあれば、ぜひとも参加したいと思います。

・クラブの活動として色々な成功例の発表を聞いてみたい。

・総合型の運営はもはや企業経営と同じだと思う。県内外で経営・運営として成功しているクラブやNPOの講演や研修を受けたい。

・各総合型クラブの理念・方針をはっきりして、社会体育移行しなければ、子ども・親の負担を多くしてしまう。

・もう少し掘り下げた内容がほしい。

・他県のクラブの実践発表やスポーツ少年団に関するものなど

・子どもたちはどんな風に感じているのでしょうか。保護者にもかなり負担があると思いますが、とても難しい事だと思います。

・NHKためしてがってんでやっていたくねくね体操を考案したどこかの大学の先生のお話をききたい。

・スポーツ施設等についての指定管理について

・小学校運動部活動の社会体育移行について、31年度以降も各地域の状況を知りたい。

・実践例をたくさんお聞きしたい。